

# 令和7年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立くすのき小学校

校長 花岡 純

## Ⅰ 学校経営方針

子どもたちが生き抜く社会のめざすべき目的地として、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがい捉える考え方(Well-Being)が重要視されるようになり、自己肯定感や自己実現などの獲得的 Well-Being と、人とのつながり、社会貢献意識などの協調的 Well-Being をバランスよく取り入れ、教育を通じて向上させていくことが求められている。

また、将来を見据えた教育の展望を示し、進むべき方向性を定めた四條畷市教育振興基本計画においては、「予測不可能な時代を豊か生き、未来を拓く人材を育成するには、子からおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」とし、「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～」を基本理念に掲げている。

これらのことから、子どもたちの抱える困難が多様化・複雑化するなか、学校における Well(よい)-Being(状態)の実現に向け、

- ✚ 自分自身を大切に、
- ✚ 他者をつながり、
- ✚ 夢や目標をもてる

をめざし、あらゆる教育活動をとおして、醸成していきたい。

実現に向けては、学校教育目標を「自ら考え、主体的に行動できる子どもの育成」とし、予測困難な時代を“たくましく主体的に”生き抜く力を育成していきたい。

**学校教育目標：自ら考え、主体的に行動する子どもの育成**

### (1) 学ぶことへの主体性

- ① 学ぶことの楽しさを知る
- ② 他者と協働して学ぶことができる

### (2) 他者につながることの主体性

- ① 他者の考え方を認める
- ② 互いの違いを認める

### (3) 夢や目標に向かって行動する主体性

- ① 自らの目標をもつことができる
- ② 目標に向かって行動することができる

**重点取組：授業づくり、集団づくり、体力づくり等全ての教育活動に、SWPBSを位置づける**

※SWPBS: School-Wide Positive Behavior Support

ポジティブな行動(望ましい行動)に着目し、ポジティブなアプローチでのばしていく

授業づくり: 授業のユニバーサルデザイン化の再認識(全員参加の授業づくり)

集団づくり: 互いの違いを認め合える集団の育成

体力づくり: 体育、保健、行事を中心とした体力の向上

## 2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	①やってみたいことがある、学びたいことがある学校 ②安心できる居場所のある学校
★めざす子ども像	①自ら学ぼうとする子 ②他者とつながろうとする子 ③夢や目標に向かって行動しようとする子
★めざす教師像	①主体的に学校経営に参画し、協働的に教育活動ができる教師 ②学校教育目標の実現に向けて、自身の役割を認識、当事者意識をもって教育活動にあたることができる教師 ③教育の専門家として学び続ける教師

### 3 学校の現状(よさと課題)

#### (1) 子どもたちの実態

本校の児童は、元気で明るく素直な児童が多く、休み時間には、友だちと一緒に運動場を走り回る姿が印象的である。また、友だちに親切に優しく接することができる児童も多くいる。学校教育目標の実現に向け、自ら考えて主体的に行動すること、相手の考えや気持ちを認めつつ自分の思いを伝えること、粘り強く取り組むことを伸ばしていきたい。

主体性を身につけるにあたっては、日々の生活において、関わる大人が子ども一人ひとりに当事者意識をもたせることが肝要で、学習活動や友だちとの関係等直面する課題解決に向け、自己決定、自己選択していく過程を大切にし、“たくましく主体的に”生きていく力の育成を図っていききたい。

#### (2) 子どもたちを取り巻く環境

##### ①教育環境

本校は平成18年に、四條畷西小学校と北出小学校を統合し誕生した学校である。校区は四條畷市の西端に位置し、北西部が寝屋川市、南西部が大東市に隣接している。東側には飯盛山の山並みを望み、その変化から四季を感じることができる。また、西側には田園風景が残り、大阪平野に沈む夕日が稲穂をあかね色に染める景色がみられ、自然環境が豊かな地域である。

学校敷地内には先人が植樹した樹木があり、満開の桜、深い緑、紅葉、落ち葉等季節の変化がみられ、校舎の中庭にある池には、メダカが泳ぎ、畑には植物が植えられ、自然とともに学習ができる環境にある。また、校庭は広く、保護者や地域の方の協力のもとにつくられたタイヤランドやみどり山は、子どもたちが心身ともにたくましく育っていく場になっている。

##### ②地域

時代とともに考え方や価値観も変わり、地域行事の継続が難しくなりつつあるなか、季節ごとに行われる伝統的な行事には、子どもたちの姿もみられ、地域のつながりを大切にしながら子どもを育てていく文化がある。また、地域の方に参画いただき教育活動を進めていきたく、学校運営協議会を中心に、“子どもを見守るよき支援者”として、連携の在り方をともに考えていきたい。

##### ③組織(教職員、PTA、保護者)

教職員は、学校の課題や子どもの困り感を共有しながら、家庭と連携して、学習指導や集団づくりに取り組むことを大切にしている。PTAは、加入が任意となったものの、多くの保護者が加入を継続されており、ともに子育てするなかで、“子どもを見守るよき支援者”となるべく、その活動の意義や必要性を感じていただいていると理解している。

子どもたちが“たくましく主体的に”生きていく力の育成に向けては、ともに子どもを育てていくことの理解を深め、連携を図っていききたい。

## 4 今年度の達成目標、具体的な方策

### 目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
☆自ら考え、主体的に行動する子どもの育成 ①学ぶことの楽しさを知る ②他者と協働して学ぶ ③他者の考えを認める ④互いの違いを認める ⑤自らの目標を持つことができる ⑥目標に向かって行動することができる		児童アンケート、学校教育自己診断 A:学校に行くのは楽しいですか B:学校の授業はよくわかりますか C:授業で友だちと相談したり、話し合ったりすることがありますか D:授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がありますか。 E:友だちの考えを最後まで聞いて理解しようとしていますか F:友だちの考え方の違いを認めようとしていますか G:学習や生活において、目標(めあて、ねらい)をもつことができますか H:目標に向かって取り組んでいますか	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
①学ぶことの楽しさを知る	A:90%以上 B:90%以上	A:81.6% B:90.8%	支援教育の観点を取り入れ、分かりやすい授業づくりに取り組んだこともあり、概ね、目標を達成はできた。楽しく学べる学校にするため、子どもたちが主体となれる教育活動が展開できるよう継続して取り組んでいきたい。
②他者と協働して学ぶ	C:90%以上 D:90%以上	C:91.2% D:68.7%	校内授業研究をとおして、話し合う活動の流れと方法を学ぶことができ、他者と協働して学習する機会が増えた。自分の考えをまとめ、発表する機会については意識的に改善を図っていきたい。
③他者の考えを認める	E:90%以上	E:95.9%	友だちの意見を最後まで聞く態度の育成を年間つうじて指導支援してきたので、子どもたちも意識が高い結果につながった。
④互いの違いを認める	F:90%以上	F:88.0%	集団づくりの取組として、違いを認め合うことを大切に学級経営、学年経営に取り組んできた。取組みを継続し、良好な関係づくりにつなげていきたい。
⑤自らの目標を持つことができる	G:90%以上	G:84.3%	キャリアパスポートを活用して、学期始めに目標設定をしたり、学級で目標を決めて取り組んだりした。
⑥目標に向かって行動することができる	H:90%以上	H:87.1%	目標に対する行動変容を自覚的に行うために、動機づけを図ったり、中間での指導支援を設定したりして、更に充実させていきたい。

## 目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
☆自ら考え、主体的に行動する子どもの育成に向けて全教職員で取り組むこと ①組織の目標や課題を共有する ②主体的に学校経営に参画し、協働的に教育活動を行う ③SSW、SC等専門家、関係機関と連携したチーム体制を構築する		教職員アンケート、学校教育自己診断 I:学校教育目標や達成に向けた方策を共有していますか K: 学年・学校の取組みや事象等チーム体制で対応していますか L:個別の困り感等の対応について、専門家の視点を取り入れて対応していますか	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
①組織の目標や課題を共有する	I:90%以上	I:94.3%	学校教育目標の達成に向けて、職員会議、校長だより(教職員向けの発行)、職朝等をつうじて、方向性を発信してきた。教職員の受留の意識が高く保っていたことが良い結果となった。
②主体的に学校経営に参画し、協働的に教育活動を行う	K:90%以上	K:94.3%	個々の役割だけでなく全体に関わる業務についても、くすのき小学校の一教職員として自分事として捉え、職務に当たる意識を高くもてる教職員集団に成長していると感じている。
③SSW、SC等専門家、関係機関と連携したチーム体制を構築する	L:80%以上	L:88.6%	SCには、子ども保護者だけでなく、教員の相談やいじめの対応、個別支援方法などに専門家連携する意識が高かった。今後、SSWの活用についても、より充実させていきたい。

## 目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
①全員参加の授業づくりを行う ②互いを認め合える集団をつくる ③体力の向上をめざす ④教育公務員としての適切な言動を心がける ⑤働きやすい職場環境をつくる		M:特別支援教育の視点から、指導上の工夫を行いましたか N:人権教育等を通じて、互いの違いを認め合える活動を取り入れましたか O:体力向上をめざした授業や行事の取組みを進めている P:教育公務員として相応しい言動を意識して職務遂行している Q:仕事の効率化、データ・書類等の情報整理、良好な人間関係等働きやすい職場になるよう心がけていますか	

B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
①全員参加の視点をもった授業づくりを行う	M:90%以上	M:100%	支援教育の観点を取り入れた授業づくりについて、板書の構造化、視覚支援、授業の流れの提示、明確な指示等わかりやすい授業づくりを学校全体で取り組めたことが良かった。
②互いを認め合える集団をつくる	N:90%以上	N:100%	人権教育担当者をつうじて、お互いを知り、良さを認め合える取組み、委員会活動を通じて、ポジティブな行動の発見を掲示するなど、学校全体で意識的に活動ができた。
③体力の向上をめざす	O:90%以上	O:97.1%	朝の会の体幹トレーニング、体育の時間の遊具を使ったサーキットトレーニング、休み時間の多様な遊び等に年間通して取り組めたので、全国体力・運動能力調査において、柔軟性や投げる力の改善が図られた。
④教育公務員としての適切な言動を心がける	P:100%	P:97.1%	職員会議等を通じて、不祥事防止、子どもとの望ましい関わり、支援の在り方について共有をしてきており、より適切な言動について意識しながら職務に当たることができた。
⑤働きやすい職場環境をつくる	Q:80%以上	Q:91.4% (情報整理) Q:88.65 (職場環境)	校務PC、タブレットPC、校務支援システム等を活用して、情報の整理、過去データの使用、教材準備等効率よく働ける環境を構築できている。また、困りごとを抱え込まず学年や担当教員、管理職とも相談できる職場環境を一人ひとりがつくろうとしている。

#### 目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)		
①学校の取組みを家庭、地域 ②学校運営協議会の効果的な連携を行うに発信する ③9年間を見通した小小、小中連携の取組みを推進する	R:教育目標や指導方針を文書や通信等で分かりやすく伝えている S:学校ニーズに応じた取組みを行う T:合同研修、授業参観を実施する		
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価

①学校の取組みを家庭、地域に発信する	R:90%以上	R:96.3%	学校だよりを月2回発行し、行事や授業等での子どもたちの様子や授業研究等の学校の取組を発信することができた。
②学校運営協議会の効果的な連携を行う	S:具体的な取組につなげる	授業支援 イベント開催	CS委員の方を中心に、PTAとも連携しながら子どもと保護者が触れ合えるイベントを実施したり、学校の授業支援(家庭科の実習)に関わってもらったりして、地域に開かれた学校づくりを推進することができた。
③9年間を見通した小小、小中連携の取組みを推進する	T:年3回以上	合同研修研 授業参観	学校公開を通じた相互の授業参観、一人ひとりの学びを大切にした授業づくりの合同研修、中学校入学に向けた説明会や小学校同士でのレクリエーションをとおして、四條畷西中学校区における9年間を見通した取組を進めることができた。

## 5 学校関係者による評価(学校運営協議会等)

学校が課題も含めて「本音」を地域に発信することで、地域住民が「一緒に学校を創る」という当事者意識を持つきっかけになっている。地域の人と一緒に変わっていきたいという思いがあり、一緒になって取り組めた一年だった。子どもたちは、生き生きと学校生活を送り、先生も休み時間に校庭に出るなど、良好な関係性が築かれている。また、あいさつをする子が増えてきている。

地域の中での対面や会話を通じて、子どもたちのポジティブな姿を広めていくことが、重要である。

## 6 総合評価と次年度に向けて

「子ども一人ひとりを大切にする」を意識しながら、教育活動を行ってきた。学校での取組を通して、子どもたちは、友だちを大切にできる温かい心に成長がみられ、みんながわかる・できるをめざして準備した授業のことを肯定的に捉えている。今後、あいさつをする等の生活習慣の改善、進んで学習しようとする姿勢、本への興味関心を高め、自分の考えを言葉に表して表現する力を更に高めていきたい。

また、保護者の方からは、学校行事、安全管理、情報発信について、一定の信頼を得ている。今後、子どもの「主体的に学習に向かおうとする姿勢(読書、宿題)」や「社会性(あいさつ)」といった、学校と家庭が連携して育むべき部分を伸ばしていきたい。また、言語活動等を位置づけた更なる授業改善、そして教職員の同僚性をさらに高めて、学校力の一層の向上につなげていきたい。

学校関係者からは、学校の取組が子どもたちの活動につながっていると高く評価をいただいていた。授業支援や学校行事等の関わりをつうじて、地域と学校が協働的に取組を進めることが重要との意見を踏まえ、次年度以降も、学校運営協議会の協力を得つつ、子どもたちのポジティブな様子を発信し社会に開かれた学校づくりをめざしていきたい。